

しゅげんさんじゅうさんつうき

## #50 修験三十三通記

作者：智光（ちこう？ 生没年不詳）

蓮覚（れんかく？ 生没年不詳）

刊行：元禄2年（1689）



### 📖 解題

#### ■ 内容

修験教義書として重要視されてきた資料の一つ。単に「三十三通記」ともいう。15世紀末ごろ、彦山靈仙寺の智光と蓮覚が、彦山に口伝されてきた修験や峰入りなどに関する33通の



[188.5/37]

切紙を、正確さを期すために筆録修正し、まとめたものとされている。この『修験三十三通記』を分類増補して50通に編集したものが、即伝の著した『修験修要秘決集』であると言われている。

当館所蔵の資料は、京都で中野六右衛門によって発行された刊本である。発行年月日は、「元禄二己巳年七月吉日」とあり、「彦山阿吸房法印則傳述」との記述もある。即伝は、永正6年（1509）に生まれ、永禄元年（1558）に亡くなっている。

#### ■ 作者

作者は彦山靈仙寺の智光と蓮覚と言われている。『修験道辞典』によると、蓮覚は彦山靈山寺の住職、智光は同山の先達であったとされ、15世紀末頃、彦山で活躍した人であるとされているが、詳細は不明であり、生没年についても分かっていない。

#### ■ 構成

この書物の構成は、題名からも分かるとおおり、33枚の切紙、つまり33項

目から成る書物となっている。この 33 項目を大きく 4 つに分類し、「衣体分十二通」（衣体）、「浅略分七通」（修験道の初歩的な教義内容）、「深秘分七通」（より高次の教義内容）、「極秘分七通」（修験教義の奥義）から構成されている。

## 📖 本文を読む

< 版本 >

『修験三十三通記』中野六右衛門 1689 [188. 5/37]

< 翻刻 >

「修験三十三通記」（『日本大蔵経 第 37 卷 宗典部 修験道章疏 2』日本大蔵経編纂会編 日本大蔵経編纂会 1920）

※当館未所蔵 国会図書館デジタルコレクション（インターネット公開）で閲覧可能

< デジタル >

信州大学附属図書館 近世日本山岳関係データベース

※『修験三十三通記（蓮覚伝/即伝撰）』上について、全頁を閲覧可能

## 📖 参考文献

『密教大辞典 増訂版第 3 卷 シハータ』密教大辞典再刊委員会編 法蔵館 1969 [188. 5/7A/3]

『修験道思想の研究』宮家準著 春秋社 1985 [188. 5/145]

『修験道辞典』宮家準編 東京堂出版 1986 [188. 5/154]

浅田正博「近世における修験教義の注釈書—『修要鈔』と『修験記』について—」（『近世の精神世界』大蔵精神文化研究所編 群書類聚完成会 1996） [121. 5/113]

『仏教からみた修験の世界：『修験三十三通記』を読む 修験道教義入門』浅田正博著 国書刊行会 2000 [188. 59/19]

『修験道小事典』宮家準著 法蔵館 2015 [188. 59/46]